

章立て	基本計画大綱に盛り込む内容	基本計画に盛り込む内容	審議会での発言
I 計画策定の趣旨	—	計画策定の趣旨	平成25年9月に区議会で議決された世田谷の20年間を展望する基本構想を踏まえ、将来人口推計や財政見通しなどの中長期展望を見据え、8年間の区政運営の基本的な指針となる基本計画を策定する。また、計画策定にあたっては、区民検討会議、基本計画審議会、ステークホルダー意見集約、議会での議論等を踏まえ、検討を進める。
	—	計画策定の背景	「区の歴史」、「社会動向」、「人口」、「土地利用」、「地域資源」、「公共施設」、「財政状況」、「地方分権」など、区の現況を踏まえ、計画策定の背景をまとめる。
II 計画策定の考え方	—	計画の位置づけ	区民生活のニーズと世田谷区の抱える課題に対して、区民とともに実現を目指す将来目標を設定し、区が重点的に取り組む施策の方向性を明らかにした区政運営の基本的な指針であり、区の最上位の行政計画。
	—	計画期間	現在の10年(4年-4年-2年)の計画期間を8年(4年-4年)とし、基本計画についても、中間年での見直しを図ることで、機動的・実践的な計画とするとともに、社会状況の変化などを一層反映できる計画とする。
	計画策定にあたって (基本的な考え方・コンセプト)	計画策定にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆何も教えなくてもデジタルツールをすぐに使いこなせる現在の子供もたちが、10年後、20年後に世田谷でメインで活躍していく社会を見据えた計画としたい。【羽毛田委員】</li> <li>◆日本全体、あるいは生態系までも含めた広い視点から、誰もが一層住みやすくなるための政策をインクルーシブに考えていく必要がある。【小林委員】</li> <li>◆縦割りの寄せ集めの計画とするのではなく、SDGsなどの複眼的な目標を掲げるなど、最上位の計画ならではの内容とすべき。【小林委員】</li> <li>◆計画していないことが起きた際に役立つ指針となるような内容を考えた方がよい。【小林委員】</li> <li>◆命をしっかりと守るというのが行政の一番大事な立ち位置であり、災害時を含め、区民の命をどう守っていくかという視点が重要である。【鈴木委員】</li> <li>◆個別や分野別では議論できない内容を議論していく必要がある。【森田委員】</li> <li>◆コロナ禍で社会変容が起きており、急速な変化に対応するには、これまでのフォアキャストの計画論ではなく、バックキャストの考え方が重要である。【涌井委員】</li> <li>◆安全安心や子どもの未来など、重要課題への区の理念をしっかりと基本計画に掲げることで、急激な社会状況の変化に対応することが可能ではないか。【尾中委員】</li> <li>◆全てを包摂するような考え方、区政への参加の考え方を打ち出せたらよい。【羽毛田委員】</li> </ul>
基本方針 (目指すべき将来像)	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ランドマークを建てるなど、世田谷をもっと楽しめるような場所にしていけないか。【安藤委員・区民検討会議】</li> <li>◆世田谷は広いが、意外と分断されていて、縦に移動するのは非常に難しい。【安藤委員・区民検討会議】</li> <li>◆より独自の教育施策が展開できるのではないか。【安藤委員・区民検討会議】</li> <li>◆次の世代を担う若者がやりたいことを実現するための資源を残すこと、可能性のプラットフォームをつくるのがサステナブルな社会の実現につながり重要。【青柳委員】</li> <li>◆簡単には意見を表明しにくい事情や環境にあり、自分の困っていることを人に知られたくない、また、相談することに不安を抱いている方は多く、ダイバーシティの視点からそのような方々にどのような支援をできるかが大きな課題。【江原委員】</li> <li>◆女性支援、特に苦しい状況に置かれている若年女性への支援について、しっかりと考えていくべき。【江原委員】</li> <li>◆子ども、若者、外国につながる方など、多様な方々の人生が輝くような基本計画をつくることで、世田谷のブランド化につながる。【江原委員】</li> <li>◆空きが生じ始める保育園を多機能化し、地域みんなが集まれる場所に発展させるなど、他自治体よりも10年、20年先を読みながら、いろいろな取組みを新しく提案できる自治体を目指すべき。【汐見委員】</li> <li>◆世田谷のモデルがつくられ具体化されていくと、全国のモデルになってくる。【鈴木委員】</li> <li>◆世田谷区も人口減少局面、少子化の問題に直面することを意識する必要がある。【中村委員】</li> <li>◆医療・福祉分野では、今後、8050問題やひきこもり、ごみ屋敷の問題など、分野の狭間にある、あるいは複合的な問題に取り組んでいく必要がある。【中村委員】</li> <li>◆高齢者や障害者などがいかに地域の中で暮らし続けられるか、貧困格差の問題や住まいの問題も踏まえ、サポートしていくシステムが必要になる。【中村委員】</li> <li>◆一番苦しい人に手が差し伸べられる地域社会を実現することが、世田谷のブランドになるのではないか。【中村委員】</li> <li>◆区政を取り巻く多様で複合的な課題の解決に取り組むことができる担い手の創出、人材の育成が次期基本計画のポイントである。多様な住民が主体となった生活をベースとする起業や創業は区内で多く見受けられ、起業活動を一層促すことが重要である。【長山委員】</li> <li>◆人権問題や文化の違い、経済上の対立など、社会の様々な対立構造に対し、区の政策としてどう対応していくのか、しっかりと議論していくべき。【森田委員】</li> <li>◆社会の一員としての若者の参加や意見表明、権利侵害への救済、若者の事業展開などに向けた支援が必要ではないか。【森田委員】</li> <li>◆グリーンインフラの取組みなど、自然のストックを活用していくことで、まちが成熟して人々の心が豊かになっていく。幸福感をどう見出すかが重要であり、ウェルビーイングの視点から、世田谷のまちを、金銭的に豊かにならなくても心が居心地がよくて住みやすい、みんなが助け合えるといった姿に変えていくことが必要ではないか。【涌井委員】</li> <li>◆心が豊かになれるような社会をつくるには、公共が非常に重要な働きをする。【安藤委員】</li> <li>◆子どもへの支援に加え、これから社会に出ていく若者への支援を充実することも必要ではないか。【佐伯委員】</li> <li>◆働く女性や子育て世帯などのリアルな声をしっかりと吸い上げていきたい。【下川委員】</li> <li>◆区内でリーダーシップを発揮して活動している方々の活力は貴重であり、こうした方々が情報共有し、円滑に活動できる仕組みづくりが必要である。【羽毛田委員】</li> <li>◆計画の実効性を確保するには、人材育成の視点が重要だ。【大杉委員】</li> </ul>	
III 重点政策	将来像の実現に向け 分野横断的に 重点的に取り組むべき課題	重点政策 ※基本計画大綱をもとに 区が具体的な内容を検討	
IV 分野別政策	分野別政策の考え方・ 政策の柱立て	分野別政策 ※基本計画大綱をもとに 区が具体的な内容を検討	
V 実現の方策	計画推進にあたって 重視すべき考え方など	計画推進にあたって 重視すべき考え方など	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆プッシュ型の情報発信をどんどん行ってほしい。【安藤委員・区民検討会議】</li> <li>◆DXの力を活用した革新的な取り組みを行ってほしい。【安藤委員・区民検討会議】</li> <li>◆全国に世田谷の取組みを一層アピールしていく必要がある。【安藤委員・区民検討会議】</li> <li>◆ブランディングが進んでいる世田谷区において、今後必要となるのがDXの部分ではないか。【尾中委員】</li> <li>◆プル型の発信にも力を入れていくべき。【尾中委員・区民検討会議】</li> <li>◆幅広い世代からの声を取り入れたり、様々な視点から区の現状を見直すことで、さらなる課題解決につなげることができるのではないか。【佐伯委員】</li> <li>◆SDGsなどの複眼的な目標に照らし、縦割りの政策を全部チェックすることなども必要になってくるのではないか。【小林委員】</li> <li>◆参加と協働については、受け止める側となる事業者・職能団体にも理解を得た上で、力を入れていく必要があるのではないか。【中村委員】</li> <li>◆DXをどう使っていくのかが、次の基本計画の課題ではないか。【中村委員】</li> <li>◆大人にとっても子どもにとっても大事な働き方改革を進めるべき。【森田委員】</li> </ul>